

## 2026年度 一般社団法人全関西大学女子バスケットボール連盟 編成表

## 【1部】

---

1位 大阪人間科学大学	5位 立命館大学
2位 大阪体育大学	6位 関西外国語大学
3位 関西学院大学	7位 園田学園大学
4位 武庫川女子大学	8位 京都先端科学大学

## 【2部】

---

1位 大阪産業大学	7位 京都産業大学
2位 京都教育大学	8位 びわこ成蹊スポーツ大学
3位 関西大学	9位 大阪教育大学
4位 流通科学大学	10位 大阪電気通信大学
5位 大阪大谷大学	11位 神戸親和大学
6位 天理大学	12位 大阪国際大学

## 【3部】

---

1位 奈良学園大学	7位 大阪成蹊大学
2位 桃山学院大学	8位 神戸大学
3位 芦屋大学	9位 和歌山大学
4位 森ノ宮医療大学	10位 佛教大学
5位 同志社女子大学	11位 神戸学院大学
6位 甲南大学	12位 大阪公立大学

## 【4部】

---

1位 大阪大学	6位 京都女子大学
2位 兵庫教育大学	7位 畿央大学
3位 奈良教育大学	8位 大阪芸術大学
4位 奈良女子大学	四天王寺大学
5位 京都大学	

---

※順位は2025年度リーグ戦結果（入替戦結果含む）によるもの

## 2026 年度 TO 講習会 実施報告書

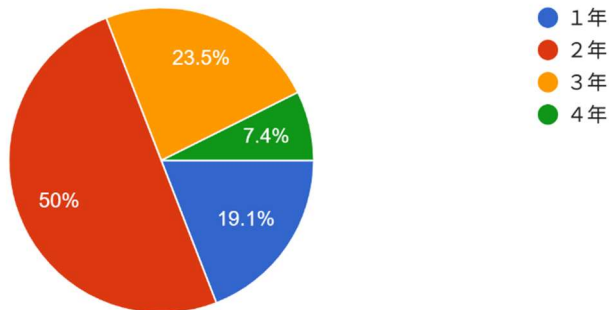
競技部

### 1. 目的

2026 年度におけるすべての試合において、円滑かつ公正に運営するため、テーブルオフィシャル (TO) に関する共通理解と知識水準の向上を図る。特に、昨シーズンに確認された TO に起因するトラブルの再発防止を目的とし、本講習会を公式な TO 研修として位置付ける。

### 2. 実施概要

- ・実施形態：オンライン (Zoom)
- ・実施時期：2026 年 3 月 30 日 (月)
- ・時間：19:00~20:00
- ・所要時間：約 60 分
- ・講師：大阪府バスケットボール協会 TO 担当 板垣様 (外部講師)
- ・参加者数：約 200 名 (41 大学)

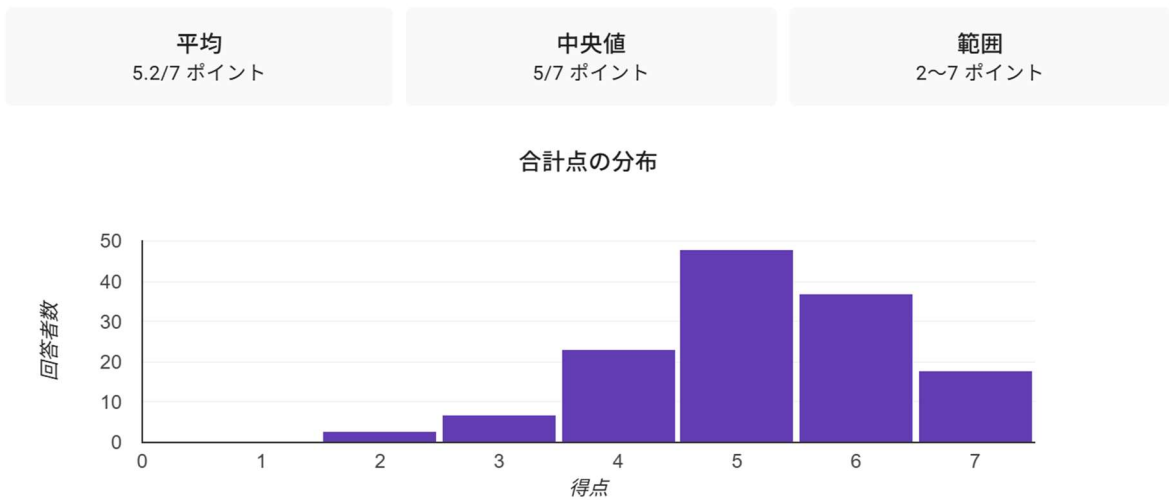


### 3. 講習内容

- ・TO の役割と責任
- ・TO 業務の基本確認
- ・実際のトラブル事例の共有と対応方法
- ・事前に募集した質問への回答

#### 4. 確認テスト

講師の方と協議のうえ、7 問の確認テストを実施。



#### 5. 講師謝礼

- ・外部講師による専門的研修として実施するため、JBA 規定を参考に謝礼金を支出
- ・オンライン講習（約 60 分）：10,000 円程度

#### 6. 参加者からの感想（抜粋）

##### 【良かった点】

- ・アローを変えるタイミングや、OWNゴール時のスコアの記入方法、口にすることで防げるミスやシュートが決まったあと必ずベンチを見ろということなどでトラブルにならないように出来るということが分かった。
- ・テーブルオフィシャルズの役割や重要性について改めて学ぶことができた。試合を円滑に進めるためには、正確な判断と迅速な対応が求められることを実感した。
- ・ゲームクロックやショットクロックの操作、ファウルや得点の記録など、一つひとつの役割が試合全体に大きく関わっていることを理解した。また、審判や選手と連携を取りながら進めることの大切さも学んだ。
- ・スコアラー、A スコアラー間のコミュニケーション等、普段簡略化されている部分が多いことに気づいた。それら全てをマニュアル通りに行うのは大変だが、少なくとも簡略化されている、本来はこういう目的のためにこういうやりとりをするなどの意識をもつだけでも TO のミスは減ると思うので、今後チームで実践していきたい。

**【改善点】**

- ・開催時間を早めてほしい
- ・対面や実戦形式での実施を希望

**7. 総括**

本講習会を通じて、TO 業務に対する理解向上が見られた。また、新 1 年生の入部が確定し始める時期に実施することで、大学バスケットボールに関わる新入生の参加も見込まれる。一方で、より実践的な内容や対面形式での開催を求める意見も確認された。今後の開催に向けては、より実務に即した講習内容および実施方法について、部内において検討を進めて行く必要がある。

# 活動報告書

都道府県協会名／一般財団法人関西学生バスケットボール協会

部門・団体名／審判部

責任者／部長：飯尾勝紀 学生担当：梶谷幸平

報告担当者／井上 未都

中区分／人材育成

小区分／学生審判育成事業

事業名／令和7年関東学生審判講習会

## 【実施した事業内容】

実施期間：2026年3月25日～26日(2日間)

実施場所：大東文化大学 東松山キャンパス総合体育館

活動規模：各地区学生審判員 B 級 C 級

活動内容：

### 講習会について

#### 【使用大会】

DAITO CUP2026

#### 【講師】

3月25日(水) 竹澤友美氏、東條輝正氏、箱石拓也氏、三浦海音氏

3月26日(木) 眞栄喜工氏、加藤暁生氏、豊島浩章氏、丹羽法明氏【タイムスケジュール】

3月16日(月) オンライン講習

3月25日(水) 3月26日(木) 実技講習

### オンライン座学講習会

#### 【テーマ】

桑原一貴氏「ベーシックな3POメカニクス～プレイに合わせたポジションアジャスト」

高野晃平氏「ゲームコントロール～RSBQの考え方とコミュニケーションの取り方」

実技講習会担当試合

【1日目】北陸高校ー福岡大大濠高校

【2日目】興南高校ーメリノール学院高校

活動成果：

感想

#### 【座学講習】

3POメカニクスの理解・RSBQの考え方・ゲームコントロールに必要なコミュニケーション

## 活動報告書

ヨンの取り方について深めることが出来た。コミュニケーションにおいて「聴く・理解する・伝える」という順序が大切で、伝える場面では、CRECメソッド（結論・理由・根拠・結論）を意識することでより円滑なコミュニケーションが取れることを学んだ。

### 【実技講習】

1日目<北陸高校ー福岡大濠高校>IR:東條輝正氏

PGCでは、メカニクス、福岡大濠のキープレイヤー、CWについて確認を行った。試合は、大きなトラブルなくスムーズに進んだが、自身のプライマリで起こる明らかな事象を逃してしまいセカンダリで助けてもらったり（特に留学生の所のRebound）、OOBミスをしたり、メカニクスに意識が行き過ぎて、判定面が疎かになってしまったケースがいくつかあった。IRからは、FT時のTの立ち位置、プレゼンテーションを強くするようご指摘頂いた。この試合を通して印象に残ったのはクルーの声掛け・アイコンタクトで、good callやmiss後の声掛け、FTでのアイコンタクトを行うことで、自分の判定に自信を持つことが出来たり、様々な確認がしっかりと出来てその重要性を学ぶことが出来た。これから主審を担当する試合が増えていく為、今回の学びを活かしてCCMを出し、クルーを支えられるような主審を努められるようになりたい。

2日目<興南高校ーメリノール学院高校>IR:眞栄喜工氏

PGCでは、映像を見ながら3POで起こりやすいミスや、Primaryの確認、各チームの留学生に対する見方について確認した。試合では、PGCで話した通り留学生のRebound、insideに対するdefの守り方のところで悪い部分があったため、序盤からシンプルにcallすることが出来た。Foul balanceが全体的には揃っているものの、クォーターごとに片方のチームに偏ってしまった。手の部分でシンプルにcall出来そうなものがあった為、テンポセット効果としても笛を入れたら良かったと思った。CWはとてもよく、適度にコミュニケーションを取れたため1試合を通して良い雰囲気ゲームを進めることが出来た。1日目に比べて、Primaryを意識したcall、自信を持ったcallが出来た。また、メカニクスの部分で積極的なローテーションやCのオールコートの見方にトライすることが出来た。IRの方には、プレゼンテーションの部分をご指摘頂いてデュアルカバレッジの部分で起こったFoulに対してdouble callになってもすぐに手をおろさなくても良いことや、判定に対してなぜ吹いたか、何を伝えたいかもっと声を使って表現した方が良いことを教えていただいた。

今回の座学、実技講習を通して他県のレフリーやIRから学ぶことが多くあり、とても勉強になった。また、3POの経験を積む貴重な経験が出来た。今回学んだことを実践して自分のレフェリングに活かすことはもちろん、自連盟の後輩に私が学んだことを伝えたい。このような機会を頂いたことに感謝いたします。ありがとうございました。

## 審判・指導者対象 情報交換会開催について

### 1. 目的

この情報交換会は、連盟として、審判員とコーチ陣が共通の認識のもとで指導および試合運営を行える環境づくりが目的。日本バスケットボール協会（JBA）の競技規則やプレーコーリングガイドラインを元に、ルールについて再確認や向き合う機会とする。

### 2. 実施概要

- ・日程：2026年5月24日（日）
  - ・時間：新人戦決勝戦終了後 17時00分頃（予定）
  - ・会場：大浜だいしんアリーナ（堺市立大浜体育館）
- ※対面形式にて実施  
※本実施に伴う追加の会場費用は発生しない

### 3. 対象者

- ・各チームの監督およびコーチ

### 4. 案内方法

・学連が把握している各チーム監督およびコーチに対しメールにて案内を行うとともに、各チームへも周知し、チーム内での情報展開を依頼する。

※既に配信済み